



コロナ後、物価高時代のコンタクトレンズ選択

いま流通するコンタクトレンズの大半は2週間または1日交換レンズです。日本は1日交換レンズ使用ユーザーの比率が高かったのですが、3年及以上ぶにコロナ禍を経て、その差は歴然としたものになっていきます。

1枚のレンズを2週間1に渡って使い回す2週間交換レンズは、以前から指摘されていた衛生上の懸念事項が解決出来なかったこと、さらにステイホームを機に本格化した小型VDTを用いた圧倒的ビジュアル生活で瞬き

最後はコンタクトレンズの値上げについてです。昨今の相次ぐ値上げ

が減り、目が乾燥する環境での使用が常態化したことから、レンズ自体の消耗が激しくなり、使用環境が厳しくなったため淘汰されていきました。では1日交換レンズを使うとして、どの銘柄を選択すればよいでしょうか。本当にスッキリ見るとためには、近視や遠視の矯正と同時に乱視や老視の矯正も必要になることが多いのです。それらのラインナップが揃っている銘柄ならば、目の屈折状態が変化しても長らく使っていけます。

理由は、主に輸送、配送費、それに伴う人件費の占める割合が高く、原材料費は知れています。乱視や老視用のレンズは、1つの球面度数に対して数種類の加入度が設定されます。在庫を置くとなれば順列組合せで莫大な数になり、管理分の値段が高いのです。コスト高の費用をユーザーに転嫁せず、同一銘柄で多種類のレンズを提供するメーカーの銘柄を選んでみましょう。

(院長・伊田宜史)

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

【休診日】木・土曜午後
日曜、祝日

TEL 079-556-8600

伊田眼科クリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	△	○	○	△
18:00	○	○	○	○	○	○	△

三田市武庫が丘7-7-4 エムズⅡビル1階 <http://www.ida-ganka.com>

